

歴史大河

鳥取県発大河ドラマ

第 5 号

編集発行

鳥取県を舞台に！歴史大河
ドラマを推進する会

事務局

鳥取市佐治町加茂七三九
田中精夫宅

地域に根ざし力強く前進！

第四回歴史大河ドラマ選考会

鳥取県内には、県ゆかりの歴史上の人物が埋もれている。本会はそれらを主人公にした歴史大河ドラマの発掘をめざしている。今年度は、亀井茲矩物語「鳥取城主・武田高信」揚羽四代物語の三テーマからなる魅力ある物語が出揃い、去る十一月三十一日、とりぎん文化会館において選考会を開催した。なお、鳥取県社会福祉協議会・とっとりいき



第4回選考会 2020. 10. 31 (とりぎん文化会館)
参加者：約100名 有効投票数：78票
表彰を受ける徳岡義広氏「亀井茲矩物語」発表

いきシンシアバンク 空涯
現役』と共催した。
その結果、2020年度歴史大河ドラマに亀井茲矩物語を候補として決定した。

現在、ドラマ(大河ドラマ)だけでなく、朝ドラや民放テレビも含めてに取り上げていただくよう、各方面に働きかけている。

なお、選考会当日は、とっとり県民の日にちなんで、とっとり県はこうしてできた」と題して地域史研究家の小山富見男氏にご講演していただいた。

(田中精夫 記)

選考基準

- ①主人公に、1年(50回分)にわたり興味を引きつけられるエピソードがあるか。
- ②主人公の人生に、我々に訴えかける現代と共通するメッセージ性、テーマ性があるか。
- ③主人公の人間らしさ・喜怒哀楽、主人公を取り巻く家族愛や恋愛、友人との絆、ライバルといった人間関係により、視聴者に感動を与えるか。



候補作品「稲作技術の進歩に
尽くした老農・中井太一郎」
保存会による発表の様子



候補作品「怪僧 豪円」
吉島潤承氏
発表の様子



候補作品「赤とんぼの母」
四井幸子氏
発表の様子



候補作品「澤田節蔵・廉三
と美喜」
片山長生氏の発表の様子

NHK要請活動

令和2年5月、共同代表の田中精夫と内田克彦、及びこれまでの歴史大河ドラマ候補代表、片山長生氏、小椋弘美氏、四井幸子氏はNHK鳥取放送局(局長飯塚正人氏)を訪問し、片山長生氏執筆の「愛郷」出版の報告を行うと共に現状の報告をした。

③愛のクニへ〜澤田節蔵・廉三と美喜〜の現況
◎小説「愛郷」を出版したところ、売れ行きがよく好評である。

赤とんぼの母〜碧川かたの生涯現況
◎県の補助事業を受けて紙芝居を作成し、各地で講演をしている。

怪僧・豪円の現況
◎米子、西部地域で紙芝居や講演会を開催し好評を博した。

近代稲作の父・中井太一郎の現況
◎冊子「太一車」を出版するほか、発表会等を開催し好評を博している。

NHKからは、大河ドラマだけではなく単発的なドラマとしての放映を検討して見たいとのこと。また、本会の活動が広く県民に浸透することを期待しているとのことであった。

候補者の現況

☆三愛のクニへく澤田節蔵・廉三 美書 発表者 片山長生

ドラマ化には本があれば、とのNHKの誘いに乗って『愛郷』を発行して一年が経った。政界きつての読書家である衆議院議員の石破茂氏からも温かい声援を頂いた。ビスマルクがいみじくも言っているように「賢者は歴史から学ぶが、愚者は経験からしか学ばない」。なるほど最近の為政者は愚者モトキが目にする。が、学校の歴史教育にも問題がある。教科書が味も素っ気もないからだ。そこで、高校生諸君にも読んで貰いたくて、来年から始まる『歴史総合』の副読本を狙ってみた。その肝は物語『愛郷』に付録をいた。幸いなことに、教育のデジタル化が進んで、生徒諸君もパソコンが教科書やノート代わりとなる時代、余分な印刷代を掛けなくとも情報は届けられる。『愛郷』の①用語・人名・歴史事項の解説と②関連資料をブログとして立ち上げてみた。//aino.blog.jp/を開いてくれると『愛郷』く外交官澤田廉三の生涯が出てくる。さて現場教師諸君がどう反応してくれるか？が私の最後の使命であるのかも知れない。

☆近代稲作の父 く中井太一郎

発表者 北村隆雄

令和三年二月 BSS山陰放送テレビ「なまふて」出演。六月に倉吉中央ロータリークラブで講演。七月 書籍出版「コロナに負けない新時代 ハガキ出し運動爆走中」の本で「中井太一郎」の紹介を行った。

研究調査活動では「千歯抜き」から「太一車」への産業変遷を調査した。特許制度は明治十八年に始まり、明治二十二年、「千歯抜き」が第一号として兵庫県の宮永芳蔵（特許第九一七号）のものが登録されたことを皮切りに、明治年間に約一六〇件が登録された。発明の初期は兵庫・愛知・大阪・奈良・東京など各都道府県から出願され、鳥取県では倉吉鍛冶町近傍の「関金宿」で明治二十七年、二十九年に河上満蔵の特許第二四一五・二五八五号が登録されている。その後も、鍛冶町職人や技術者から出願され、明治年間の特許登録件数は鳥取県が最多であった。明治の後半になると単品の千歯抜きから複合的な自動機械が増え、鳥取県の登録件数は減少していく。大正三年に「サトー式稲抜き機」が現れ、「千歯抜き」の生産が減少する。この回転式の特許出願者は鍛冶町の松田幸平と、松江市の安達伴五郎であった。回転式稲抜き機械が倉吉から松江に移ったことを示すものである。

倉吉の「千歯抜き」は減少するが中井太一郎が「太一車」を発明、明治十五年の特許一七二六号を取る。千歯の技術と販路により日本や世界に広まった。現在も生産が続く「ロンングセラ」商品で稲作拡大に貢献している。

☆怪僧 豪円 く三山を復興した大山の名僧

発表者 吉島潤承

新型コロナウイルス感染症の影響により主活動の「紙芝居上演」が皆無になり苦労している。鳥取学出前講座く鳥取県西本郡等共催（大阪）も、大イベントであるが昨年より未だに延期のままである。その様な状況下でも何が出来るかという観点で地域団体との連携や人材育成に活動を切り替えている。

他団体とのコラボレーション活動です。米子市観光まちづくり公社とのタイアップにより、令和三年三月二十七日に「米子城三の丸P.R.A.S.S」として、米子城跡にて紙芝居の上演をした。また、六月に米子市まちづくり活動支援交付金を活用して新たな紙芝居を制作した。「米子城の妖怪」、「加茂川の河童」の2作品である。そして、七月に米子高校の工芸デザイン系列の紙芝居制作や読み手の育成に向けてスタートし、拠点である米子市東地区の女性へのアプローチをした。

さらに、外国語での読み手育成として、昨年の英語に続き、中国語、韓国語として一般社団法人山陰インバウンド機構との連携をスタートさせた。

今後、新型コロナウイルス感染症の収束が来るまで、コラボレーション主体の活動をして上演活動可能になるまで準備を進めて行きたいと思う。

☆赤とんぼの母く碧川かた・三木露風

発表者 四井幸子

「鳥取県を舞台に！・・・」に一回目に声を上げて四年目になる。初年度からパネル展示と研究会を県内三ヶ所で始め、各地で隠れファンがいて研究会に参加してくださる。今年特に若い女性が増えたことは喜ばしいことだ。パネルは今たつの市の書城館に出張展示に出かけている。（九月十八日〜十月十七日）今年は大露風「赤とんぼ」作詩百年の節目の企画展なのだ。

昨年は実行委員が集まり、紙芝居「赤とんぼの母 碧川かたの生涯」を制作し、後世にも残るよう県内公共図書館等に寄贈した。制作だけに留まらず今年には上演依頼も来ている。

今年も研究会の成果を小さい本にまとめようと、会員の皆さんに原稿を依頼している。来年はちょうどかた没後六十年にあたることもある。

研究会の後で会報を出していて、ネットでは「鳥取県を舞台に！・・・」のホームページ、トップページの「鳥取大河だより」の中に会報を準備号から20号迄を載せている。ぜひ見てください。

※インターネットかスマホで「鳥取県歴史大河」と検索してください。

令和二年度認定候補

「西いなば亀井さん検定スタート」

発表者 徳岡義広

戦国から江戸時代初頭に因幡国西部を治めた鹿野城主亀井茲矩。青年期の彼の願いは只一つ出雲奮遷・尼子家の再興。しかし、羽柴・毛利の和議により叶わぬ夢に。夢破れた時、理想の国づくりに向けて歩み始めた。

内にあつては、山を切り、川を変えて城下町を築き、干拓する。ある時は水を導き豊かな耕地を次々に生み出していった。またある時にはお年寄りをお城に招き長年の労苦をねぎらった。西いなば地域の敬老会はその志を受け継いでいる。亀井武蔵守茲矩、台州守・琉球守の守名乗りも持つ。内に意を巡らせばおのずと外にも目が向くものか、外にあつては九州を除くすれば唯一、御朱印船貿易にも取り組んだ大名であった。日光生姜やうぐい突き漁など東南アジアから持ち帰った産品文化が今なお新鮮な輝きを放ち続けている。

前置きはさておき、西いなば地域ではこの四〇〇年間、多くの人が彼のことを「亀井さんと呼んできています。人間同士の関係が希薄になりつつある」と云われて久しいが、「亀井さん」は西いなば地

域全体を繋ぐ心のインフラに違いない。西いなばをもちと元気にするために「亀井さん」にひと肌脱いでいた。令和三年一月二日、気高・青谷・鹿野の関係者が集まり二日間温め続けていたご当地検定「亀井さん検定」がいよいよスタートした。今後、中級・上級と挑戦し、彼そして彼を育んだ西いなばに渾身の力をこめてエールを送りたい。



亀井さん検定スタート! (R3.2.21 山紫苑)



亀井さん検定ガイドブック

大河ドラマ

「青天を衝け」を見て

大河ドラマを楽しむため、日曜日はBS一八時からと総合(〇時から)の二回、テレビにかじりついて見ている。おまけに、二〇二二年は、私の好きな幕末・明治が舞台になる「青天を衝け」、「NHK大河ドラマガイド」と完全小説版全4巻を購入してさらに堪能することになっている。加えて、脚本は大森美香、朝ドラ「あさが来た」で高視聴率をたたき出し、五代友厚役のティーンフジオカをフレイクさせた、素晴らしい脚本家である。

コロナ禍のなか二月一四日に始まり、渋沢栄一役の吉沢亮、徳川慶喜役の草彅剛、平岡田四郎役の堤真一などの熱演に、この時代への想像が膨らんだが、途中オリパラで五回も休み、年内には終了するとのこと、計四〇回のみの、誠に残念で中途半端である。

かつて五代が創立した大学で学び、著名な先生から教わった、倒幕は薩摩藩がずっと中心であった、とする幕末政治史が脳裡にあつたが、それを裏付けるように、「青天を衝け」では長州藩は登場せず、従つて坂本竜馬の一番はなく、幕府対薩摩藩の非常にすっきりした構図で描かれたことに大いに得心した。

これから突入する明治は、大河ドラマでは余り描かれなかった経済が中心となる。西郷隆盛の好印象に比べて大久保利通はそうでなかったとする、渋沢の回顧をど

う扱うかとか、大阪の五代をどう描くか、など見どころ満載。残りは一四回、これまでと同様に「おかしな」といえる「青天を衝け」を期待したい。(内田克彦)

編集後記

第四回の選考会は、令和二年十月三十一日、鳥取県社会福祉協議会ととりいきいきシニアバンク「生涯現役」の全面的な協力を受けて、とりいき文化会館で開催された。コロナ禍の中、多くの制約がある極めて厳しい条件付きでの大会であった。

それにも関わらず、発表者の旺盛な研究心と郷土の偉人を知ってほしいという強烈な願いがあつて、優れた発表となった。シニアバンクからは、数々の演奏や芸能で発表を盛り上げていただいた。感謝したい。東部会場は、選考会二回目目とあつて原点に戻ってきた。大盛況とはいえないが、東部の方の大河ドラマへの想いを感じた大会であった。

開催地、徳岡義広氏、木下登志彦氏の発表は見事なものであった。ドラマ化への熱い想いが伝わる。中でも、徳岡氏の発表は、「亀井茲矩の履歴書」という目新しい方式で提案されたもので、多くの来客の耳目を引いた。「山中鹿介との別離」琉球守拜命、「鹿野祭り」など名シーンの提案があり、演劇人としての氏の面目躍如たるものがあった。大河ドラマの王道鳥取発の戦国時代を期待したい。

(田中精夫)